

日本再興のためのイノベーションシステムの改革に向けて（概要）

～飽くなき「挑戦」と、知の衝突による「相互作用」が織りなすイノベーションの連鎖～

平成26年4月14日
総合科学技術会議
資料1-1

【1. 基本認識】 総合科学技術会議は、我が国のイノベーションシステムの改革に着手すべき

- 「**SIP**」と「**ImPACT**」による「カンフル剤」に加え、**持続性のあるイノベーションシステム**を作る「**体質強化**」が必要。
- イノベーションは、様々な担い手の飽くなき「**挑戦**」と「**相互作用**」の積み重ね。
「**挑戦**」と「**相互作用**」に関する**多様な機会の提供**により、その可能性を飛躍的に向上。

【2. 全体俯瞰の政策運営】 総合科学技術会議は、我が国全体を俯瞰した政策運営を主導すべき

- 府省それぞれでの**個別最適から全体最適へ**。→関連施策を俯瞰して**府省横断的な連動・改革**

【3. 改革の方向性】 政府を挙げて、「挑戦」と「相互作用」に係る多様な機会を提供すべき

- 「イノベーションの芽」を育む**研究力・人材力強化**
… 若手や女性等の挑戦・異分野融合の機会拡大、挑戦を促す研究資金制度 など
- 分野や組織の枠を越えた**共創環境の整備**
… 人材・知識・技術をつなぐイノベーションハブの構築
人材の流動性向上、大学と企業との橋渡し機能の強化、「目利き」「触媒」となる人材の活躍拡大 など
- イノベーションを結実させる**事業化促進**
… 研究開発型ベンチャー、中小・中堅企業の「挑戦」の機会拡大 など